

MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

2014年6月号 フィリピン台風30号被災地支援ワークキャンプ



発行人:濱塚有史 編集人:家村知佳 発行所:特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1
TEL 019(623)1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>

「思い出とYMCA」

安保 勲人 (ベスト・キッズOB)

私のYMCAでの一番の思い出を考えていたのですがYMCAでの思い出は順番を付けることができないくらい大切なものなので強く印象に残っていることを書きたいと思います。

私の中で強く印象に残っているのは5年生の時にゆびあすでアントスBに勝った試合です！たぶんこの年は新人戦を除いたらこのアントスB戦しか勝ってないと思います。この試合自体も確かピリ決定戦だった気がします。5年生になってからのアントスB戦以前の試合は無得点、大量失点が当たり前でした。私の感覚ではサッカーを始めてから22歳の現在までのゴールキーパーとしての失点のうち半分はこの一年間で入れられたんじゃないかってくらいの大量失点でした。当時からYMCAは『勝つことより自分たちのサッカーをする！』を目標に日々練習をしていましたがさすがに毎試合ボロボロにされちゃうとやっぱり勝たたいって思いは大きかったですね。負け続けていた時はとにかくがむしゃらに練習しました。ジャージのズボンに穴を開けまくりでした。その甲斐もありなんとかアントスBに勝つことができました。正直あんなに嬉しいと感じたことはないかもしれません。普通なら飛び跳ねて喜ぶところですが。なんて言っちゃって初めての勝利だったしそれを望んでいたわけですから。ただ勝つことに慣れていなかった、と言うよりは負けることに慣れていた私

はいまいち喜び方がわからず困惑したのを強く覚えています。この試合が転機になりそれからの試合ではそれなりに勝てたし、なにより自分たちのサッカーができた試合が多かったと思います。そういったことも含めてこのアントスB戦が印象に残っている出来事であり大切な思い出の一つです。

この他にもたくさんの思い出を作ってくれたYMCA、中でも眞太郎、ハマちゃん、サル、たわし、チャンマン、ティラノは小学生で生意気な私にサッカーの楽しさを、サッカーの厳しさを、サッカーの楽しみ方を教えてくれました。その他にもサッカーとは関係のないことまでいろいろ教えてくれました。おかげで人間として成長できたと思います！とても感謝しています。そんなリーダーやもちろん一緒にサッカーをした仲間と出会わせてくれたのがYMCAでした。そんなYMCAに所属できたことを一生誇りに思います。また、そんなYMCAに通わせてくれた両親にも感謝しています。今YMCAでサッカーをしている小中学生のみなさん！リーダー、仲間、両親に感謝し楽しいSoccerLifeを送ってください！

4月・5月アドベンチャーまとめて報告！！

4月アドベンチャー

「賢治の森へ行こう！」

今年度、記念すべき第1回目のアドベンチャーが4月27日(日)に行われました☆今回は、スタッフ2名、リーダー7名、子ども17名の26名で、花巻広域公園にハイキングに行ってきましたよ～!!ここには、大きな池やアスレチック、また森や芝生が広がっていて、とっても自然がいっぱい!!そんな大自然の中で私たちは大はしゃぎでした☆

出発してすぐ、バスではゲームで大盛り上がり!!歌もみんなで大きな声で歌いテンションMAX♪賢治の森に着く前からワクワクとドキドキがとまらない様子でした☆

賢治の森に着くと、「冒険の書」と「地図」が各グループに渡されました。その「冒険の書」に書かれた数々のミッションをクリアしていくと…最後には素敵なプレゼントが…?!という事で子どもたちは、張り切っている様子でした♪あるグループでは、アスレチックを制覇せよ!というミッションに大はしゃぎ♪はたまた別なグループでは、たか～い展望台から、「さくら～!!」と大声で叫んだり!!またまた、公園内に隠された5つの幸せを呼ぶ鐘を探し、鳴らしたり!!その他にも、松ぼっくり合戦をしているグループや、芝の上からゴロゴロと転がって遊んだりと広い自然の多い公園でたくさん遊んできました☆

お昼の時間も、青空の下でお弁当をひろげ、おいしそうに皆で笑い合いながら食べました♪お菓子も楽しみ、再び冒険へ繰り出しました。

そうして遊びきった私たちは、帰りのバスでも大盛り上がり!!(笑)替え歌を作って大笑いしている子もいれば、こちょがしあって盛り上がっている子たちなど最後までみんな笑顔で過ごしました☆

岩手大学教育学部3年 武田 悠 (ゴリナリーダー)



5月アドベンチャー

「レッツアウトドアクッキング!!」

5月アドベンチャーは5月18日(日)に行われましたよ!なんと、子ども28名、リーダー7名、スタッフ2名の総勢、37名の大人数!!このメンバーで今回は「レッツアウトドアクッキング!!」都南つどいの森へ行き、まき割りや火付けを行い、皆でマシュマロやソーセージ、お餅など様々なものを焼いてきました♪行きのバスでは、「でっかいでっかいゴリラ」や恒例の「たまごとニワトリ」という歌を熱唱♪人数が多いせいか、声の迫力が凄まじいことに…!きっとバスは揺れていたのでは…?と感ずるほど♪

つどいの森に到着すると、「アウトドアクッキンググッズを探し出せ!」ということで、クロスワードウォークラリーを行いました!各グループごとに、つどいの森中に貼られた問題を解きながら、ありかを探しにかけ駆け回りました☆ありかにたどり着くと、なんとそこには…金のカプセルが!!その中には、アウトドアグッズと交換できる券が入っており、4グループ全員がその券をゲットすることが出来ました☆

お昼を食べた後は、ゲットした券とグッズを交換して、まき割りや火付けに挑戦!ふと～いまきに挑戦し嬉しそうに「割れた～!」と話す子や、火が付きやすいように細く細くまきを割っていく子など普段は経験できないことを、実感し楽しみました☆そして火付けでも、どのようにまきを組んだら火がつくかと、グループの子どもたちやリーダーとあれこれ話し合いながら行っていました!火が付くと「ついた!ついた!」と歓声が!!その火でたくさんのもの焼き、とても満足そうにしている子、喜んでる子、たくさんの笑顔が見られました☆

岩手大学教育学部3年 武田 悠 (ゴリナリーダー)

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 5月報告書

山々の緑も濃くなり、夏に向けて木々も息吹を上げています。子どもたちもしっかり、高校生もよく頑張っています。と言うことで、冒頭は高校生についてお話しいたします。

5月3日(土)～4日(日)の1泊2日で宮古市野外活動センターにて高校生リーダートレーニングを実施いたしました。参加は2名と寂しかったですが、メニコン(盛岡Y)リーダーがお手伝いしてくれ、とても有意義なトレーニングとなりました。初日は濱ちゃんリーダーと窪田リーダー(東京)がお手伝いして下さい、箸作りにも夢中になっていました。高校生たちも真剣で黙々と箸作りをしていました。今回のトレーニングでは、まき割り、火熾し、料理と野外体験をしました。普段お家で手伝いしているのかしていないのか?包丁さばきはそれなりに出来ていました。カレーはスープカレー!2日目のお昼のお好み焼きは美味しかった。みんなパクパク?お口に頬張っていました。

さて、5月17日(土)に行われた5月例会(アドベンチャー)では、化石についての勉強をした後に実際に川沿いに行って化石探しです。石灰岩を探さないといけないのですが、子どもたちは真剣な眼差しで石を探していました。指導してくれた方のもとに

「この石は?」「これは違う?」など、引切り無しに集まる子どもたちにたじたじ状態でした。その後のサクラマスの解体ショーでも釘付けです。普段プロの技を見ることがない子どもたちや大人までもが「おっ!凄い!」「同じ大きさに切り分けられている!」等々、興味をそそる光景にみんな感激していました。切り身は炭火で焼いて、あらは汁にして頂きました。子どもたちも満足!お代わりをする子どももいました。食後はサクラマスの生態について勉強です。映像も食い入るように見ながら、最後の質問では、「どうして穴を掘って卵を産みつけるんですか?」「なんで砂かけるんですか?」等々、子どもたちの関心、観察は素晴らしいと言うよりも興味津津な部分をかいま見ることが出来ました。

宮古は自然がいっぱいです。子どもたちと共にこの自然を生かしたプログラムをたくさん行っていきたいです。そして、子どもたちが自然を大切にしないと様々な生き物が生きていけないこと。もちろん私たちも同じであることを学び、後世に伝えていく担い手となってほしいと願うばかりです。

宮古ボランティアセンターセンター長 斎藤 勉



箸作りにも没頭中。高校生も盛岡YMCAのリーダーも自分の世界にのめり込んでいます。



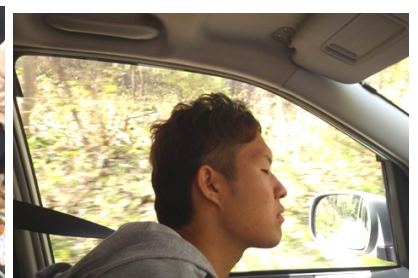
野外調理に挑戦!



↑ 指導員に群がる子どもたち! みんな真剣ですよ



↑ お弁当と一緒に、焼き魚と汁物をほおぼっていました!



↑ おまけ! トレーニングの帰り、寝ていないと言い張ったメニコンの居眠り証写真です!

～フィリピン 台風30号被災地支援ワークキャンプ活動報告～

こんにちは!盛岡大学社会文化学科2年の東海林 俊一(ますおリーダー)です。私は5月11日～19日の間、フィリピン台風30号被災地支援ワークキャンプに行ってきました。このキャンプの資金はみなさんが集めてくださった募金によって成り立っていました。このようなキャンプに私が参加できたのは、皆さんのおかげです。ありがとうございました。

キャンプでは、台風により壊された小学校や図書館の修理をしてきました。主なワークは壁やいす・机などのペイントでした。他の国の人と同じ目標をもって作業をするのは、初めての経験だったのでごく新鮮で刺激的でした。また、そういったワークなどを通して世界中のたくさんの人と友達になることができました。今回のワークキャンプではそれが自分の一番の財産です。

今後も数年間にわたり地元の青年たちと共に地域のためにワークを行う予定ということでした。本当にそういったことを実現して行ってほしいと心から思います。

以上、ますおからでした!今後この経験を活かして盛岡YMCAで活動していきたいと思えます!

盛岡大学教育学社会文化学科2年
東海林 俊一(ますおリーダー)



「小さな日々の死」

「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば多くの実を結ぶ。」 (ヨハネによる福音書十二章二四節)
 「はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたのである。」 (マタイによる福音書二五章四十節)

イエス様の譬え話の「一粒の麦」は、一生に一度おきるか否かの大きな事からであると私は考えていた。また、私にはできそうにない事からであると、最初からあきらめていた。しかし、先日NHKの番組で、長年ノートルダム清心女子大の学長をされた渡辺和子先生と加賀美アナウンサーの対談聞いていて、「一粒の麦」はもっと小さなことで、かつ具体的に日常的な事からであることを教えられた。

渡辺和子先生は生まれる時、母親が生みたくなかったという。しかし、父親が「生んでおけ」と言っていて、この世に生まれてきたという。終生そのせいか母親には親しみなかったという。その一方で父親が大変かわいがってくれたという。その大好きな父親は渡辺先生が九歳の時に他界した。

渡辺先生は若い時から「私は、生きていいのだろうか」悩み続けたという。二十歳の時、宣教師に出会って、そして「あなたは宝だ」と言われて、生きていく力をいただいた。

江戸時代に宣教師は、「愛」を「ご大切に」、GOTAISETUNI、と訳したという。なぜなら、日本語の「愛」には「欲」が入るからである。仏教では、愛を「愛欲」として、煩惱の最もたるものの中に入れていた。「愛欲」は男女の愛である。これには純粋に自己を消し滅ぼすことはできない。「愛欲」には相手より先に自分自身、自分の幸せが先になる。純粋に自分自身の利と幸いを消しては「愛欲」は成立しなくなる。渡辺先生は、この「ご大切に」の言葉と精神がお好きなのである。

渡辺先生は、五十歳の時「うつ病」になって病院生活をされる。大学の学長をしながら、更に、修道会の責任者となり、多忙の極みに心を病んだのである。その時は、本当に死にたいと思ったという。その時、友人のシスターが「渡辺シスター、

「渡辺シスター、あなたはこれまで十分働いてきたのですから、今は十分病気をしてください」と言ってくれたことが大変慰めになったという。その時、「頑張らなさい」と言われたら、とてもつらくて耐えられなかったという。

この「うつ病」を病んだことによって、渡辺先生は人に優しくなれるようになった。それまで、他の人を「だらしがない」と思ったり、「もっとしっかりして」と心で叱咤激励し非難していた自分が、他の人に同情できるようになったという。人には、その命が終わるまでは、ミッションがある、使命がある。カトリックでは、自殺は罪であるが、渡辺先生は自殺した人を裁いたり非難することはできないと語られる。「それまで一生懸命に命を使ったのだから、祈ってあげましょう」という、深い同情といたわりの心を持たれる。

渡辺先生は、いやなことをすることは、「一粒の麦」になって死ぬことを意味する、と語られる。「神様、私は死にますから、どうか誰かを生かしてください」という祈りを持っておられる。マザー・テレサの通訳をして旅をされた。その時、テレサはどんなに疲れていても一日何百回も、カメラのフラッシュごとに、「ニコリ」と笑顔をされた。その都度、テレサさんにとっての「小さな死」を持っておられたのである。「今、私は小さな死を死にますから、どこかで誰かが生きますように。私の笑顔で、誰かが励まされ慰められますように」という祈りと、メッセージがそこにはあったのである。

渡辺先生は、学生の手紙、レポートに一人一人全員に必ず返事を書いて返される。それも「一粒の麦」なのである。また学生に「私は、死ぬことは止められません。しかし、自殺する前に必ず、挨拶に来てください」と語られる。学生は「はい」と答える。「自分のことを一人でも大切に思ってくださいる人がいる」という、メッセージをおくり続けられている。学生を本当に心底愛しておられる先生であられる。(2011年2月4日)

「聖書と人生」キリスト新聞社刊より掲載



~表紙の写真より~



ますおリーダーが行ってきた「フィリピン台風30号被災地支援ワークキャンプ」での写真。6か国から集まったリーダー達が壁絵を描き、かわいらしいカラフルな校舎へ生まれ変わったのでした。この小学校には6月から子どもたちが通い始めます。(5月11日~19日 フィリピン)

帰ってきた！リーダー紹介☆



僕がぜんまいですよー！

こんにちはー！わらびで一す！今回は僕の相方でもある、あの有名な盛岡YMCAのボケ製造機「ぜんまい」リーダーを紹介しますよー！！

彼は盛岡大学の栄養科学部に通う二年生で、本名は佐藤将隆(さとう まさたか)といいます。僕が初めて彼と出会ったのは去年の4月です。その時の印象はクールな人だなーでした。しかし、大学で話をしたり、リーダーになって遊んだりしているうちにクールではないことに気づきました。彼はクールとは正反対で口を開けば面白いことを散弾銃のごとく話してくれます。その言葉の一つ一つが笑いを生み、周りを和ませてくれます。大学でもぜんまいの周りには笑顔があふれています。彼は料理も得意です。時間がある時には彼は料理

人としての腕を發揮します。本人曰く、勘で適当に作っているということらしいのですがかなりの腕前です。これがセンスというものなのでしょうか…。僕も見習いたいくらいです。

かなりフリーダムなイメージのぜんまいなのですが、周りの事をすごく考えてくれています。友達のこと、YMCAのこと、子どもたちのことを本当に熱心に考えています。実はとっても熱い男だったりもします。

本当はぜんまいという男の武勇伝やいいところをもっともっと紹介したいのですが、今回紹介するのはここまでです。これを読んでぜんまいのことが少しでも皆さんに伝わったのなら幸いです。

以上、山菜コンビの片割れ、わらびからでした！！
 盛岡大学栄養科学部2年
 小菅友輔(わらびリーダー)



6月の予定

- ★6月1日(日)
 サンデースクール 13:00~16:00
 「食品サンプルを作ろう♪」
 (於:盛岡YMCA前湯センター)
- ★6月15日(日)
 森のようちえん
 「ピクニックに行こう♪
 おでかけキッズ☆」
 (於:中央公園・子ども科学館周辺)
- ★6月22日(日)
 ファミリーサッカー大会
 (於:仁王小学校)
- ★6月28日(土)~29日(日)
 6月アドベンチャー
 「テントに泊まろう!」
 (於:八幡平県民の森キャンプ場)
 ~サッカースクール・
 水泳教室休講日~
- 6月30日(月)
 土淵サッカースクール
 月曜水泳

リーダーが紹介するおすすめの1冊

とっても久しぶりなこのコーナー！これを復活させてくれたのは知ってる人は知っている「おいなりリーダー」です！普段は仙台にいて、たまにしか活動に現れないレアな存在☆この機会にぜひともおいなりリーダーのことを覚えてあげてくださいね！

「オススメの本は？」と聞かれたら、必ず答える一冊があります。川上健一、『翼はいつまでも』という作品です。

舞台は1960年代の青森。主人公は中学2年生の平凡な男子、神山くん。ある日彼はラジオを通じ、ビートルズの曲「ブリーズ・ブリーズ・ミー」に出会います。この曲との出会いが、彼を大きく成長させていきます。初恋に、部活に、親との確執…様々な困難が神山君に襲いかかります。彼はそのたびにビートルズの曲で自分を奮い立たせ、困難と、そして自分自身と向き合っていきます。実は僕はこの本を、今までに3回読みました。1回目は中学1年生の時。2回目は高校2年生の時。そして3回目は大学1年生の時。この本の面白いところは、読む度に新たな発見があることです。そしてその発見を通じ、自分を知ることができます。神山君と同じように、僕も成長できているのかな？



ああ、なんだかまた読みたくなってきた。今度はどんな発見があるか、楽しみだ！
 東北大学4年 濱塚 直樹(おいなりリーダー)

